



第16947号  
海員組合

### 「さくら2」が災害時緊急輸送

少しでも被災地の助けに さ海

【中・四国地方支部】中本伸一通信員】7月6日からの西日本豪雨災害を受け、JR呉線のほか、呉市と広島市を結ぶ「広島呉道路」の一部で不通・通行止めが続き、通勤時間帯を中心に

運航初日の広島港午前8時55分発の便には災害ボランティア約40人が乗船し、土砂災害による被害の甚大だった坂町小屋浦などへ出発した。フェリー「さくら2」の蔵掛哲次船長は「少しでも渋滞の緩和や、被災地の早期復旧の手助けになれるといい」と力強くコメントした。なお、呉市天応と広島港を結ぶ当航路での災害時緊急輸送は、同月末まで行われた。

### 中村 孝 海員随想

故マンデラ大統領が収容された刑務所のあるロベン島は、西欧人が植民地化に着手した17世紀、どのような状況だったろう。初期は「ベンギンとオットセイの楽園」とでも言おうか。ロベン島の由来はオランダ語の「ロベ」でオットセイの意。ペンギンが減少して目立たなかったのだから。一方、対岸のケープではコイコイ族間の分派がいつそう鮮明になったようだ。家畜を持たない者は軽蔑され、社会からのけ者扱いされた。彼らは血族に關係なく小集団をつくり、どこへでも食べ物さえあれば移動する、といった生活をしていったという。

た。ハリーは部下の生活の面倒も見られず、オランダ人が長期に滞在するならその庇護を受ける方が得策と考えた。こうして利害一致。ハリーは、通訳兼正統派コイコイ族とオランダとの仲介を一手に引き受ける重要ポストに就く。疑問に思うのは、ハリーがオランダ語をどの程度理解したかだ。思うに英蘭混合の会話ではなかったか。マゼランが世界周航を準備した時、当初セビリアから応募してきたのはわずか17人。慌ててスペイン全土に区域を拡大、どうにか280人ほどを寄せ集めた。が、出身はスペイン、ポルトガル、ジェノバ、ベニス、ベルギー、ドイツ、イギリスなど。それにムアア人、マレール人であったという。

コイコイ族一派・ハリー 英の通訳に そのリーダー格が、英国の船長によってジャワへと送られた。英・コイコイ語通訳養成のためだ。最初の通訳が殺されて5年後の1631年ころの話。思うに正統派コイコイ族は戦闘的で用心深く、おいそれとは連れ出せないが、日陰組ならたいした武器も持たず説得しやすかったのだから。1年後、ハリー(本名が覚えづらいため西欧人は彼をそう呼んだ)は、英語を習得して帰されたが、自らロベン島への移住を要望。仲間20人を引き連れ、島で英国のエンジニアト兼郵便係の任務に就いた。島自体が食料に困らないこともあったが、ケープで正統派コイコイ族からの危害に遭うより島の生活がよほど安全と考えたのだから。

当時のヨーロッパ人の移動に寛容だったのだから。もともと言葉の共通性があるわけだから日本人が思うほど苦にはならなかったに違いない。さらには、事故でケープに漂着した西欧人が帰国を諦め、そのまま現地に住み着いたという記録もあるから、ハリーは彼らとも接触があったかもしれない。

### 数奇

その間、ハリーはロベン島へ流刑されるが、仲間が島のボートを盗み大胆にも夜脱出し、成功する。リーベックは62年、次の任地マラッカへ総督として転勤。ハリーとドマンの、共にジャワで通訳の教育を受けた2人は、くしくもその翌年亡くなっている。詳細は不明だ。なお、コイコイとは「男の中の男」という意味だそうである。(元通訳官)

入植の蘭総督と利害一致 転機はオランダ人のケープ入植の時にやってきた。初代総督リーベックにすれば会社との5年契約を全うし、早く勝手知ったる前の赴任地バタビアへ転勤したかった。そのため現地事情に通じた、言葉が分かる者の助けを必要とし

### 反目へ

リーベックは次第にハリーに疑問を持つようになる。もともとリーベックとコイコイ族は相性が悪かったのかもしれない。